

西郷港周辺まちづくりの計画

「海とまちをつなぎ 世代をつなぐ」
西郷港周辺まちづくりのあゆみ



令和 8 年 9 月 隠岐の島町



まえがき

西郷港周辺地区のまちづくりの計画は、隠岐の島町西郷港周辺の再活性化を目指すまちづくりをまとめたものです。「海とまちをつなぎ、世代をつなぐまちづくり」という理念がその核心にあります。

西郷港は古くから海上交通の拠点であり、港の発展とともに周辺地区も大きく発展してきました。特に江戸時代の終わり頃には、北前船の重要拠点として多くの船が行き交い、大変な賑わいを見せました。しかし、時代の変遷とともに港周辺の都市機能が郊外に移転し、西郷港周辺のまちは多くの課題に直面しています。

一方で、隠岐の島町は特定有人国境離島であり、その一部として竹島を含むことから、日本にとって地政学的に非常に重要な位置を占めています。この地域の活性化は、地域経済の振興の点からも、国家の安全保障上も極めて重要です。

以上のような背景に立ちながら、隠岐の島町では町民参加のまちづくりを積極的に進めてきました。平成 30 年から始まったまちづくり談義を通じて、町民が直接まちづくりの議論に参加しており、この開かれた議論の場を通して、多様なアイデアが計画に取り入れられています。次世代の住民である西郷小学校、西郷中学校、隠岐高校、隠岐水産高校、隠岐養護学校の生徒たちも積極的に参加し、彼らが求めるまちの将来像を共に創造しています。その成果が「海とまちをつなぎ、世代をつなぐ」を理念とする「西郷港玄関口まちづくり計画」となって結実しました。さらに、この計画を具体化するために、全国に開かれたデザインコンペの実施に向け、住民参加による話し合いを重ねて街の再生要求水準を作成し、これに基づいてデザインコンペを実施しました。

「西郷港周辺まちづくりのあゆみ」は、「西郷港玄関口まちづくり計画」の理念をもとにまちづくりの実現へ向けて進めてきたまちづくりの実績と今後の取り組みをまとめたものです。

これまで隠岐の島町が進めてきたまちづくりは、多彩なサポートを受けながら進めている事業であり、国の基本政策であるデジタルトランスフォーメーション（DX）などの政策とも足なみを揃えて進みつつあります。

これらの取り組みの一環として、公民連携によるまちづくりも進めています。西郷港周辺まちづくりでは、行政がリーダーシップを取りつつ、民間企業の創造力と資金力を活かしながら、効果的かつ効率的な整備を進めます。このような公民の連携により、地域住民同士やビジネス・観光で訪れる人々との交流機能を持つ新しい公共空間や商業施設、さらには、居住空間の整備が促進されます。防災面での備えも考慮されて、「賑わいと安心・安全」を実現するまちづくりへと歩みを進めます。

住民の皆様の積極的な参加と連携を通じて、この地域は将来世代を含む全世代が共に楽しめる魅力的なまちへと変貌していきます。この過程をすべての関係者の協力によって実現したいと思います。

隠岐の島町長
池田高世偉

目 次

第1部 デザインコンペ実施までのプロセス

1. 西郷港周辺まちづくりに関する検討経緯	1
1-1. 隠岐の島町と西郷港周辺地区のまちづくり	1
1-2. まちづくり談義と西郷港玄関口まちづくり計画	2
2. 西郷港周辺まちづくりの理念	3
2-1. まちづくりの理念「海とまちをつなぎ、世代をつなぐまちづくり」	3
2-2. 理念を実現するためのデザインコンペの実施	4

第2部 まちづくりのプログラム ～3つの「つなぐ」～

1. 西郷港周辺まちづくり推進の全体像	6
1-1. まちづくりプログラムの構成	6
1-2. 進め方と体制	7
2. 公と民をつなぐプログラム ～公民連携によるまちづくりの推進～	8
2-1. 公民連携まちづくりに関する潮流	8
2-2. 西郷港周辺まちづくりにおける公民連携の必要性	9
2-3. 西郷港周辺まちづくりにおける公民連携の方針	11
2-4. 地域性を考慮した公民連携まちづくりの進め方	13
3. 海とまちをつなぐプログラム ～西郷港周辺地区整備～	15
3-1. 西郷港周辺地区整備のコンセプトと計画概要	15
3-2. 先行整備する公共空間と拠点施設	18
4. 世代をつなぐプログラム ～次世代を担う子どもたちの参画とデジタル技術の活用～ .	20
4-1. 世代をつなぐまちづくりの理念	20
4-2. 世代をつなぐまちづくりの実施	20

第3部 今後進めていく取り組み

1. まちづくりのスケジュール	22
1-1. まちづくりのスケジュール	22
2. 今後進めていくプロジェクト	23
2-1. 西郷港周辺整備ですすめていくプロジェクト	23

第1部

デザインコンペ実施までのプロセス

- 1 西郷港周辺まちづくりに関する検討経緯
- 2 西郷港周辺まちづくりの理念

1 西郷港周辺まちづくりに関する検討経緯

1-1 隠岐の島町と西郷港周辺地区のまちづくり

西郷港周辺地区は、世界ジオパークに登録されている自然環境と北前船の寄港地としての歴史を持っています。しかし、都市機能の変化や密集市街地の空洞化等の課題に直面しているため、持続可能な地域発展と住民の生活の質の向上が求められています。



隠岐の島町位置図



隠岐の島町全図

都市機能の変化や密集市街地の空洞化の問題は、この地域の持続可能なあり方や公共サービスの提供、社会基盤の維持を困難にしています。この課題を解決するための西郷港周辺のまちづくりは、隠岐の島町全体の「心肺機能」を強化する取り組みです。

1-2 まちづくり談義と西郷港玄関口まちづくり計画

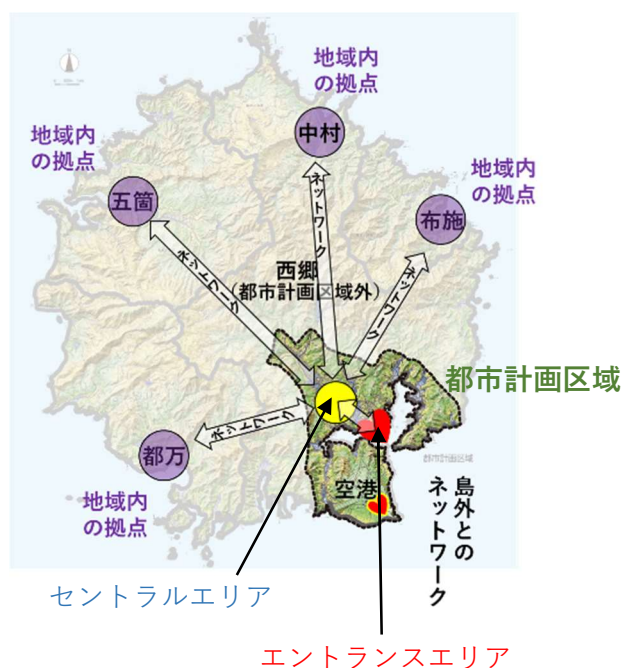
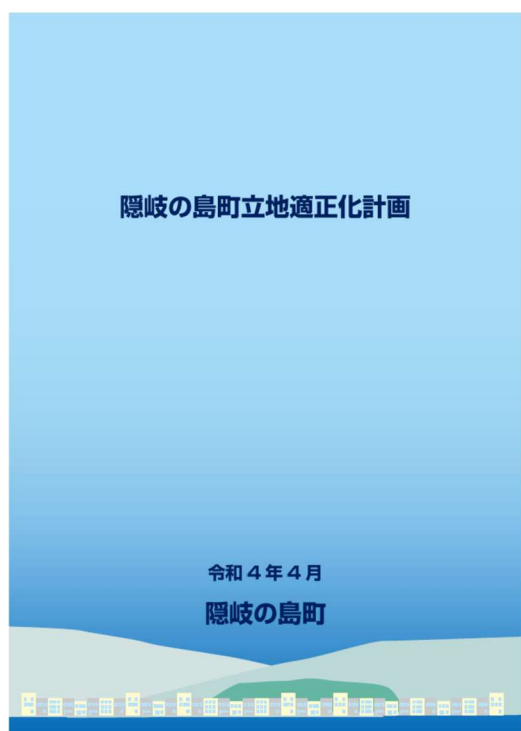
西郷港周辺のまちづくり談義では、子どもたちを含む町民が主体となっています。西郷小学校、西郷中学校、隠岐高校の生徒たちは、このプロセスを通じて地域に対する理解と愛着を深めるとともに、さまざまなアイデアを提案してきました。



上段：まち歩きの様子

下段：談義・小学生談義の様子

「西郷港周辺のまちづくり」は、国のコンパクトシティ政策とも連動する事業です。この事業は、西郷港周辺地区を中心としたエントランスエリアと行政機能と商業機能が集積しているセントラルエリアの統合を図ることで、隠岐の島町全体の機能を強化し、活性化を図ります。



立地適正化計画における「セントラルエリア」と「エントランスエリア」

2 西郷港周辺まちづくりの理念

2-1 まちづくりの理念「海とまちをつなぎ、世代をつなぐまちづくり」

「海とまちをつなぎ、世代をつなぐまちづくり」という理念のもと、西郷港周辺のまちづくりにおいては、空間的な視点から「海とまちのつながり」をどのように実現するかが重要な課題となります。西郷港は、島と本土との間で「人、モノ、情報」が行き交う交流のハブとして機能していますが、現在は海とまちが物理的に分断されてしまっています。そのため、人々が西郷湾の美しい風景を楽しみながら交流できる空間の確保を妨げています。

まちづくりが目指すのは、海とまちを直接つなぐことによる空間的な分断の解消です。創出される新しい空間では、人々が集い、モノや情報が活発に交流することになります。この場所では、子どもから高齢者まで、多世代が交流することによって、地域の文化や価値が新しい世代へと受け継がれていくことになります。

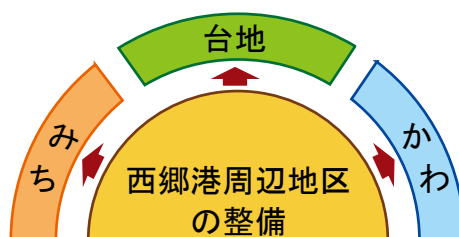
<基本理念>

海とまちをつなぎ 世代をつなぐまちづくり
～ にぎわい と 安心・安全 の実現 ～

理念達成のための

<方針>

「西郷港周辺地区の整備」を核として
「みち」「かわ」「台地」がつながることで、
エントランスエリアの活性化を実現します



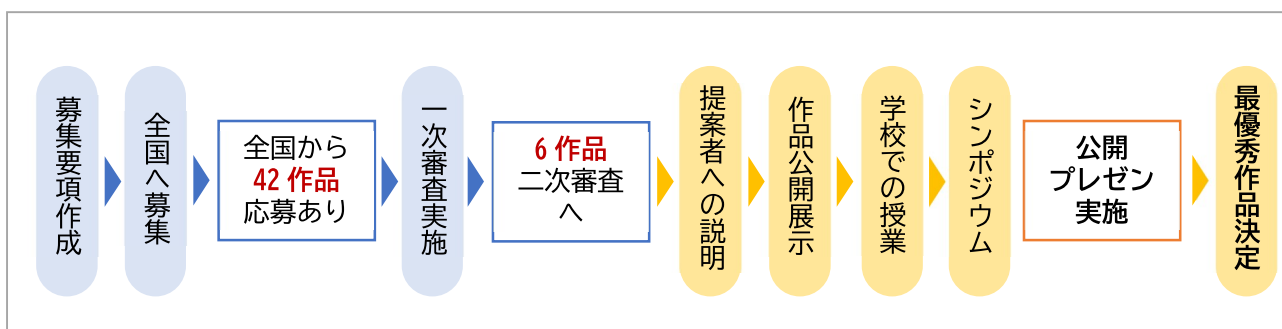
2-2 理念を実現するためのデザインコンペの実施

(1) デザイン提案への要求水準と審査

隠岐の島町は、「西郷港玄関口まちづくり計画」の理念を実現するために、デザインコンペを実施しました。まず行ったのは、デザイン提案への要求水準の仕様書作成です。

特に評価の基準となったのは、独創性と実現性です。審査には審査委員会委員のほかに、子どもたちを含む町民も参加しました。

■決定までのプロセス



■西郷港周辺地区デザインコンペ審査委員会委員

- 桑子敏雄 東京工業大学名誉教授（まちづくり総合コーディネーター）
- 布野修司 滋賀県立大学名誉教授（建築、都市景観）
- 橋本成仁 岡山大学大学院環境生命科学研究科教授（都市交通）
- 秋田典子 千葉大学教授大学院園芸学研究科教授（土地利用、緑地環境）
- 金田隆徳 隠岐の島町都市計画審議会委員
- 松田照美 隠岐の島町都市計画審議会立地適正化計画検討委員会委員
- 三島正司 島根県隠岐支庁長
- 大庭孝久 隠岐の島町副町長

(3) 最優秀作品の選定理由

最優秀作品に対する評価の概要は以下の通りです。

最優秀作品として選出されたのは、海とまちをつなぐ考え方や地域の歴史性への配慮、世代を超えた視点での住民・移住者・観光客それぞれへの対応、さらに脱炭素社会やデジタル構想への対応が未来志向のまちづくりなどが評価された「隠岐の島〈アイノマ〉ゲート」です。



最優秀作品に選出された「隠岐の島（アイノマ）ゲート」の提案作品

第2部

まちづくりのプログラム ～3つの「つなぐ」～

- 1 西郷港周辺まちづくり推進の全体像
- 2 公と民をつなぐプログラム
～公民連携によるまちづくりの推進～
- 3 海とまちをつなぐプログラム
～西郷港周辺地区整備～
- 4 世代をつなぐプログラム
～次世代を担う子どもたちの参画とデジタル技術の活用～

1 西郷港周辺まちづくり推進の全体像

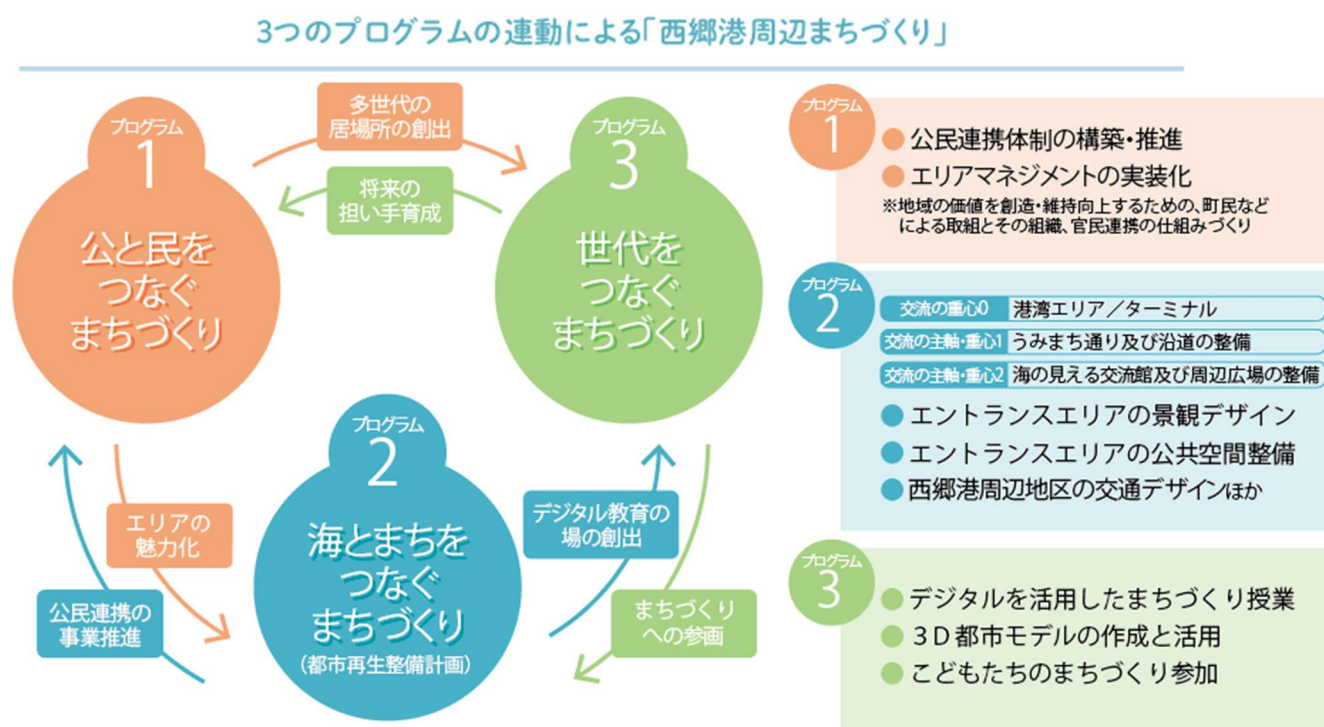
1-1 まちづくりプログラムの構成

西郷港周辺まちづくりは、「公と民をつなぐプログラム」、「海とまちをつなぐプログラム」、「世代をつなぐプログラム」を理念実現のための三本の軸としています。

(1) ポートフォリオマネジメントの概要

西郷港周辺まちづくりは、多数のプロジェクトを含む複合的なプロセスになっているため、ポートフォリオマネジメント※1の考え方を導入しています。

西郷港周辺まちづくりのポートフォリオは、複数のプロジェクトからなっている3つのプログラムで構成されています。ポートフォリオマネジメントは、3つのプログラムを統合的に管理し、まちづくりの戦略的な目標に合わせて調整します。また、プロジェクトのパフォーマンスを定期的に評価することで、まち全体の持続可能な発展を促進し、限られた資源を効率的に活用することができます。



3つのプログラムの繋がり

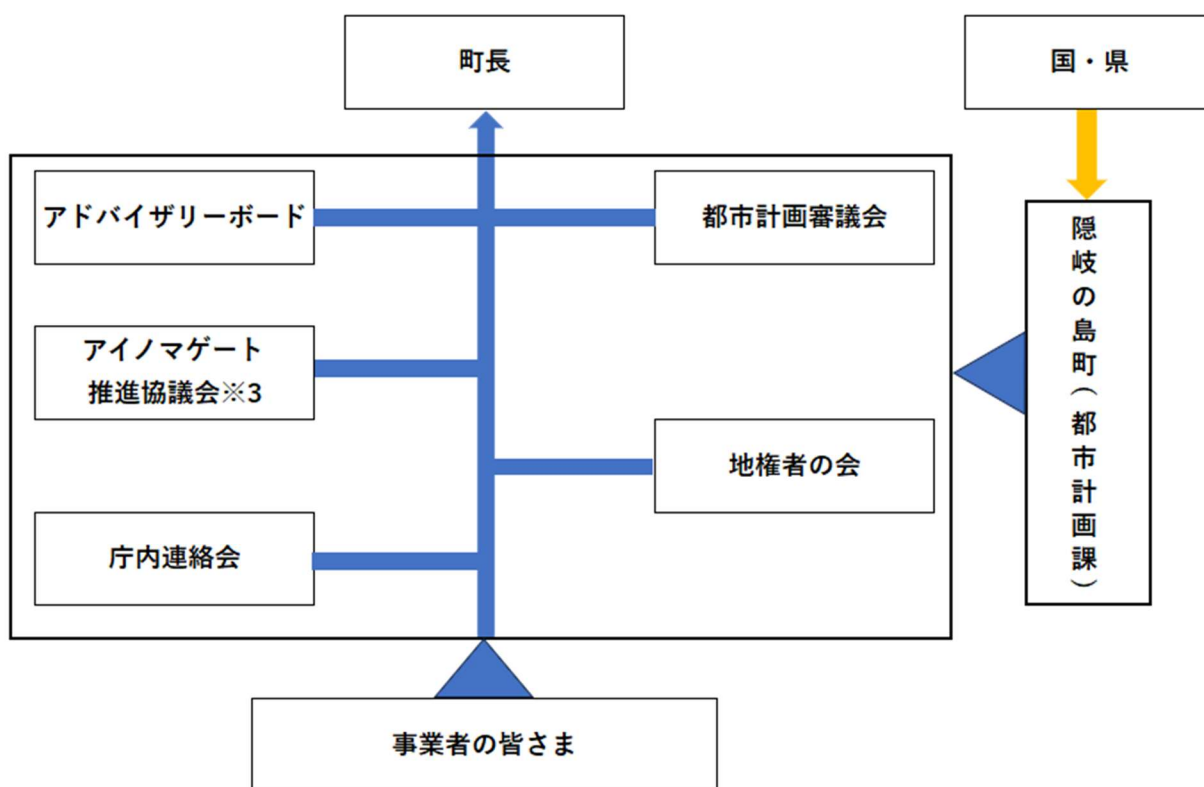
※1 ポートフォリオマネジメントとは…複数の施策・事業・プロジェクトを戦略的に整理・評価し、限られた資源を最適に配分するための管理手法

1-2 進め方と体制

西郷港周辺まちづくりは、隠岐の島町が主導する大規模なプロジェクトで、国や県などの行政機関及び隠岐の島町役場内の関係部署の連携に基づいて進めており、計画が理念と目的に沿うよう、アドバイザリーボード※2によるマネジメントチェックも受ける体制となっております。

国の都市局、総合政策局、国土政策局、内閣府などの各事業から支援を受け、現代都市が直面する課題に対応するためのさまざまな取り組みを行っています。

これらの取り組みにより、西郷港周辺のまちづくりは、地方自治体において前例の少ない先進的なプロジェクトとして進行しており、他地域におけるまちづくりの参考となるモデル事業としての役割が期待されています。



まちづくりの体制図

※2 アドバイザリーボード…専門的な助言を行うまちづくりの専門家により構成された組織

※3 アイノマゲート推進協議会…「海とまちをつなぎ世代をつなぐまちづくり」の達成に向け、決定したまちの再生デザインを実現し、より良いまちづくりを行うために、各専門分野からの検討を行う組織

2 公と民をつなぐプログラム ～公民連携によるまちづくりの推進～

2-1 公民連携まちづくりに関する潮流

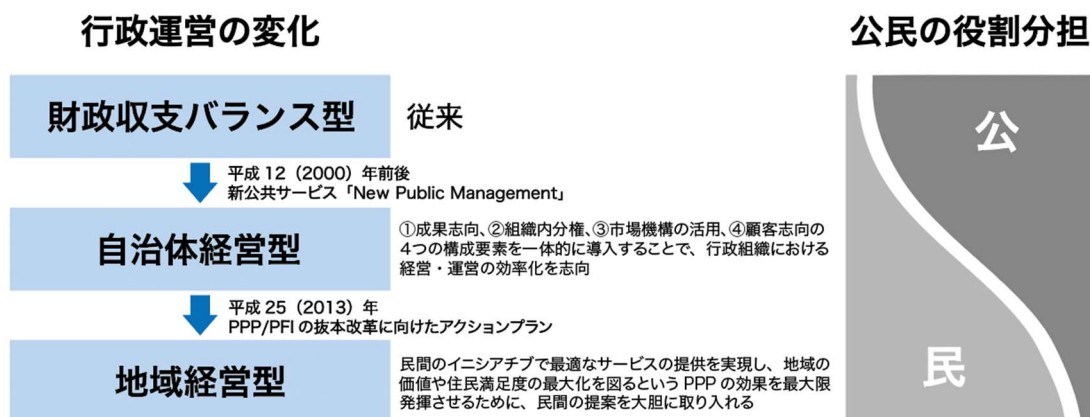
(1) 行政運営に関する世の中の動き

わが国における公民連携におけるまちづくりは、平成 11（1999）年の PFI 法（民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律）の施行により推進されています。

PFI 法は事業者が整備した施設等の費用と事業期間中の管理費等を民間の資金、経営及び技術的能力を活用し、効率的かつ効果的に整備するとともに、低廉で良好なサービスの提供を確保することを目的にしています。

(2) PPP/PFI 制度の進展

平成 25（2013）年に内閣府の民間資金等活用事業推進会議において決定された「PPP/PFI の抜本改革に向けたアクションプラン」で求められたのは、社会資本の整備・維持更新と財政健全化を両立させ、民間投資の喚起、適切なインフラ整備・更新、地域の活性化、最適な公共サービス等を実現することです。

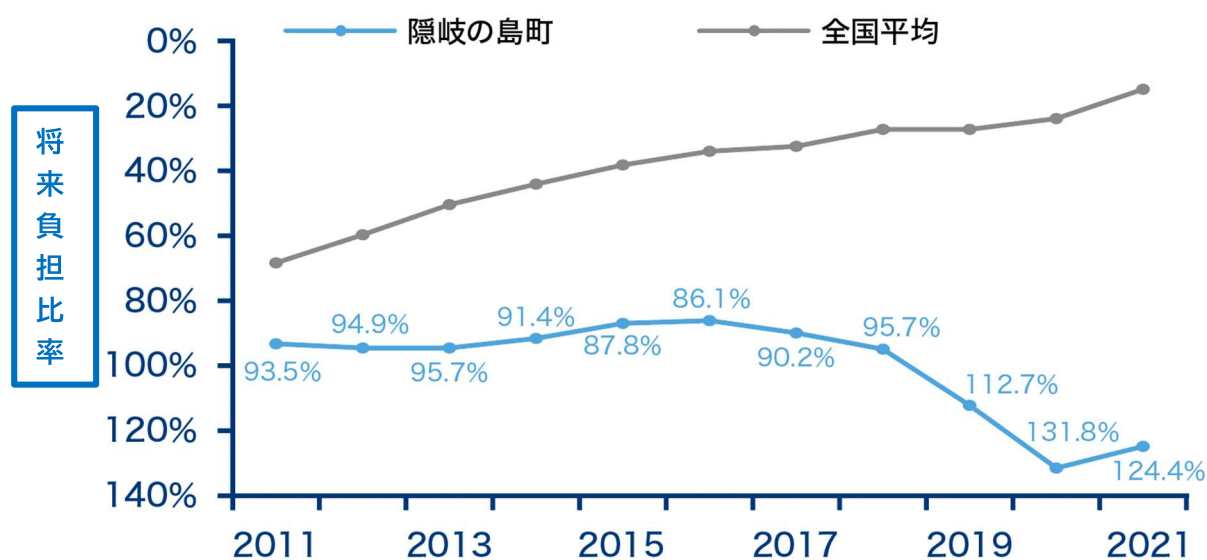


2-2 西郷港周辺まちづくりにおける公民連携の必要性

(1) 町財政の現状とこれから

隠岐の島町の経常収支比率は島根県の中位にあるものの、将来負担比率（一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する割合）は全国平均の6倍、県内19自治体中17位であり、長期的には財政の自由度が低下していく可能性が高いといえます。

また、ここ数年、町債の新規発行額が償還額を上回る状況が続いていることも踏まえると、将来負担と国の政策動向に注視しつつ、健全な財政運営に配慮した「歳出抑制」と、地域経済の回復や将来を見据えた地域課題解決に視点をおいた「財政出動」のバランスを取りながら、財政運営を行う必要があります。



隠岐の島町の財政状況と島根県内での位置づけ

財政指標	2021値	順位
		島根県内
財政力指数	0.20	9/19
経常収支比率	86.1%	8/19
実質公債費比率	10.4%	7/19
将来負担比率	124.4%	17/19
人口1人あたり人件費物件費等の決算額	293,759円	10/19

【出典】総務省「地方財政状況調査関係資料（財政状況資料集）」

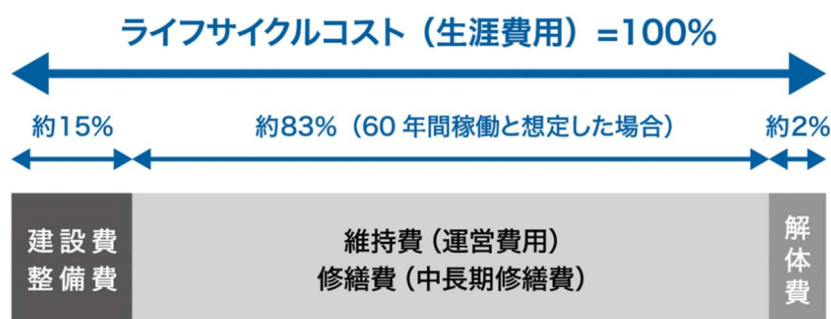
隠岐の島町の将来負担比率の推移と全国平均

(2) 投資規模に見合った施設の運営・管理のあり方

隠岐の島町では、平成 29（2017）年 3 月に公共施設等の総合的かつ計画的な管理に向けた中期的な取組の方向性を記した「隠岐の島町公共施設等総合管理計画」を策定し、町所有施設の現状や施設全体の管理に関する基本方針を示しました。同計画の中では、今後の公共施設の整備及び維持管理において「民間活力の導入」を検討することとしています。

西郷港周辺地区では、10 年間で相当な投資が見込まれますが、通常、公共施設の初期投資額はライフサイクルコスト（生涯費用）と対比した場合、15%程度であり、維持管理費は初期投資の 5 倍以上になることが想定されます。

隠岐の島町の財政状況を考慮すれば、もっとも重要なのは、町が整備した施設を民間と連携しながら維持管理することです。



公共建築に関するライフサイクルコスト割合の例

(3) 良質なまちづくりデザインの具体化

公民連携のまちづくりを推進することは、民間の創意工夫を導入することで、本来行政が提供すべきサービス等の質を高め、多様な施設活用の選択肢を提供します。

西郷港周辺まちづくりでは、公民の連携によって、整備段階から供用開始後の利用や管理の具体的なイメージを持ちつつ、機能性とデザイン性を併せ持つ公共的な施設を整備・維持管理します。

2-3 西郷港周辺まちづくりにおける公民連携の方針

(1) 基本的な考え

ここまでの前提条件を踏まえ、下記の通り、隠岐の島町の西郷港周辺まちづくりにおける公民連携の基本的な考えを示します。

- ① 公民の適切な役割分担に基づき、効果的かつ効率的な住民サービスの提供を検討します。
- ② 施設の整備・運営について、地域課題や過去の取組状況などを踏まえ、市場性や可用性など、事業成立の見込みがあることを確認した上で、公平公正な事業推進に努めます。
- ③ 事業の実施段階においては、公民双方の課題感を共有し、まちづくり及び地域の活性化に向けて有効な取り組みとなるよう、十分に協議します。
- ④ 持続可能で良質な住民サービスを提供するため、公民の立場の違いを認めながら、真摯に対話を重ねることにより、対等なパートナーとしての信頼関係を構築します。

(2) 公民連携まちづくりの対象となる事業種別

西郷港周辺まちづくりにおいて、民間が担える、また、担うべき役割を見定め、公民連携の検討対象とする事業種別としては下記の3つを想定します。

- ① 国の支援事業により整備する公共施設等の整備、運営及び維持管理
- ② 送客・移送などの交通手段、ベンチや街灯などの公共的機能の設置及び管理、公共空間の占有に関する受付窓口など、本来は隠岐の島町が担う公共機能(サービス)等の一部代替
- ③ 本エリアへの来訪を促すプロモーションやイベントでの集客などのソフト施策

上記①～③の事業推進において、①はいわゆる事業会社が担うべき役割であり、②、③についてはエリアマネジメント組織が牽引する役割であると考えます。これについては後ほど2-4(2)で詳述します。

(3) 公民連携まちづくりの推進に向けた隠岐の島町の姿勢

隠岐の島町は下記のような真摯な姿勢で、公民連携によるまちづくりを進めます。

- ① 公共施設等の建設・維持管理・改修・運営等の各段階において、民間活力の導入可否を検討し、その他の事業についても従来の発想にとらわれず、あらゆる形で公民連携の手法を検討します。
- ② 良質な行政サービスを提供するため、公民連携の導入段階で、あらかじめ継続的に提供すべきサービス内容を整理し、民間事業者との契約の際に要求水準として示します。
- ③ 公民の強みを最大限に発揮するとともに、不足する部分を相互補完できるよう、役割分担を明確にします。また、事業の安定性を確保するため、発生するリスクを想定・分析し、仮に事故などが生じたときの町と民間事業者の責任範囲について、互いの同意を取ることとします。
- ④ 良質かつ安定的に公共サービスの提供や公共施設などの整備を行える民間事業者を選定するため、広く一般からの提案を募り、複数の民間事業者による提案の中から適切な競争によって選定することが望めます。したがって、民間事業者の選定にあたっては、原則公募により行うこととします。
- ⑤ なお、公募による民間事業者の選定にあたっては、選定方法（総合評価方式、プロポーザル方式、価格競争方式など）や選定基準（項目、配点、評価基準など）について、あらかじめ募集要項などにおいて示し、公平性・透明性の確保を図ることとします。
- ⑥ 地域経済の活性化に寄与するため、「事業に対する理解を高める説明の機会を十分に取ること」、「事業者同士の連携やノウハウを有する町外事業者との協力関係づくりに繋がるような機会を創出すること」などを通じ、町内事業者が積極的に参加しやすい環境づくりに努めます。
- ⑦ 地域課題の解決に向けた様々な可能性を模索するとともに、施策と事業の目的を共有するため、民間事業者との協調を重視します。そして、民間事業者に求めることや町の課題を明確にし、積極的にそれらの情報を発信することで、より良い協調関係を目指します。
- ⑧ 民間事業者との対話を通じて得たアイデアやノウハウなどの知的財産・経営財産を尊重し、適切に保護します。
- ⑨ 公民連携手法を導入した事業について、事業期間中の定期的なモニタリングを通じ、契約に従って適正かつ確実な事業進捗がなされているかを確認します。また、コストの削減や良質な行政サービスの維持など、目的の達成度合いについては KPI（重要業績評価指標）や KGI（重要目標達成指標）などを用いて評価・検証することとします。なお、事業の終了や期間満了時には、導入による効果を様々な観点から検証し、次の事業に繋がります。

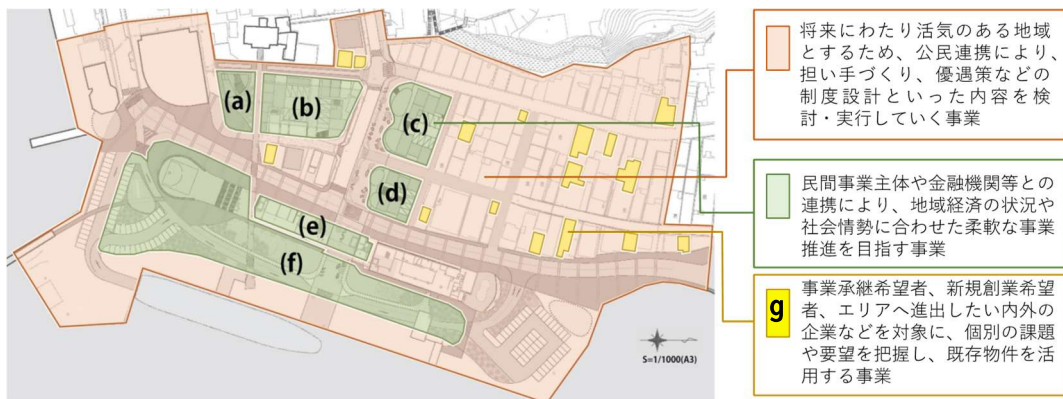
(3) 公民連携事業の推進

隠岐の島町が公民連携による推進を想定している事業の対象・範囲と事業手法は以下の通りです。

① 事業の対象とその範囲

西郷港周辺地区において実施する公民連携まちづくりの取り組みは、下図の通り、3つに大別されます。

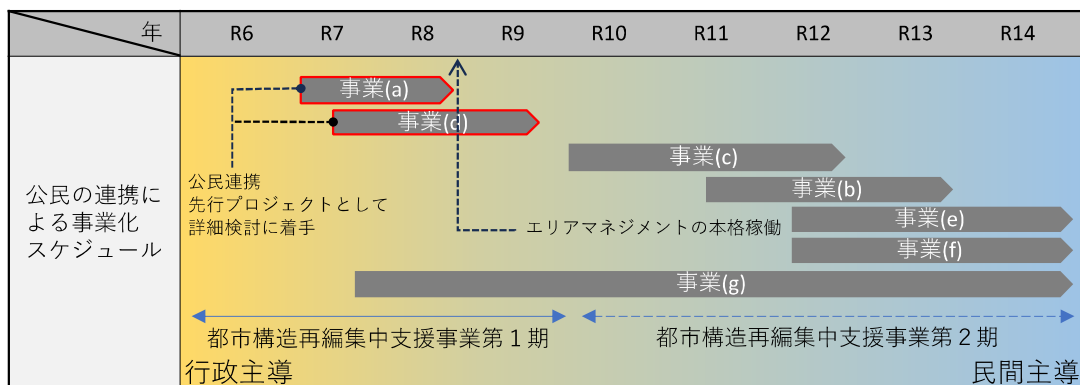
事業性質別の対象範囲図



事業箇所	事業の概要
—	エリアマネジメント事業の範囲（西郷港周辺地区全域を想定）
(a)	交流機能と地場特産品の販売施設等の複合施設
(b)	商業・暮らしの機能等の複合施設（2期のため未定）
(c)	交流・商業・暮らしの機能等の複合施設（2期のため未定）
(d)	交流・商業・暮らしの機能等の複合施設
(e)	交通拠点（フェリーターミナル）の改修、店舗等の再編・合築施設（2期のため未定）
(f)	港湾緑地の賑わい機能（2期のため未定）
(g)	空き家や空き店舗を活用したリノベーションプロジェクト

② 事業の進め方

西郷港周辺まちづくりでは、地区の特性と機能、高価値なサービスを供給する方法などを勘案し、個別に事業手法を選定、あるいは組み合わせ、最適な手法を導入します。ただし、公設民営による実施を前提とする事業（a）では、公共施設の運営権を一定期間、民間事業者に委ねるコンセッション方式、整備段階から事業会社が関与し発注する EOI 方式を選定しました。



段階的な事業実施のイメージ

3 海とまちをつなぐプログラム ～西郷港周辺地区整備～

3-1 西郷港周辺地区整備のコンセプトと計画概要

(1) 西郷港周辺地区整備のコンセプト

「海とまちをつなぐプログラム」は、西郷港周辺地区の交流、集会、商業、暮らしの機能を高めるための整備を行います。

西郷港周辺地区整備のコンセプトは以下のとおりです。

西郷港周辺地区整備のコンセプト

隠岐の島〈アイノマ〉ゲート - 次世代まちづくりのための西郷港

“アイノマ”とは、異なる性質の部屋をつなぐ間の部屋（間の間）のことです。西郷港周辺地区は、隠岐の島町の〈アイノマ〉として、町民・来訪者にとって”新しい日常”と”非日常”がつながるまちとなります。

西郷港周辺地区は、隠岐の島の〈アイノマ〉として生まれ変わることで、多世代の町民と来訪者が共に過ごすことのできる場所になり、世代をつなぐまちづくりの土台となります。



西郷港周辺地区の整備イメージ（当初一次設計提案書より）

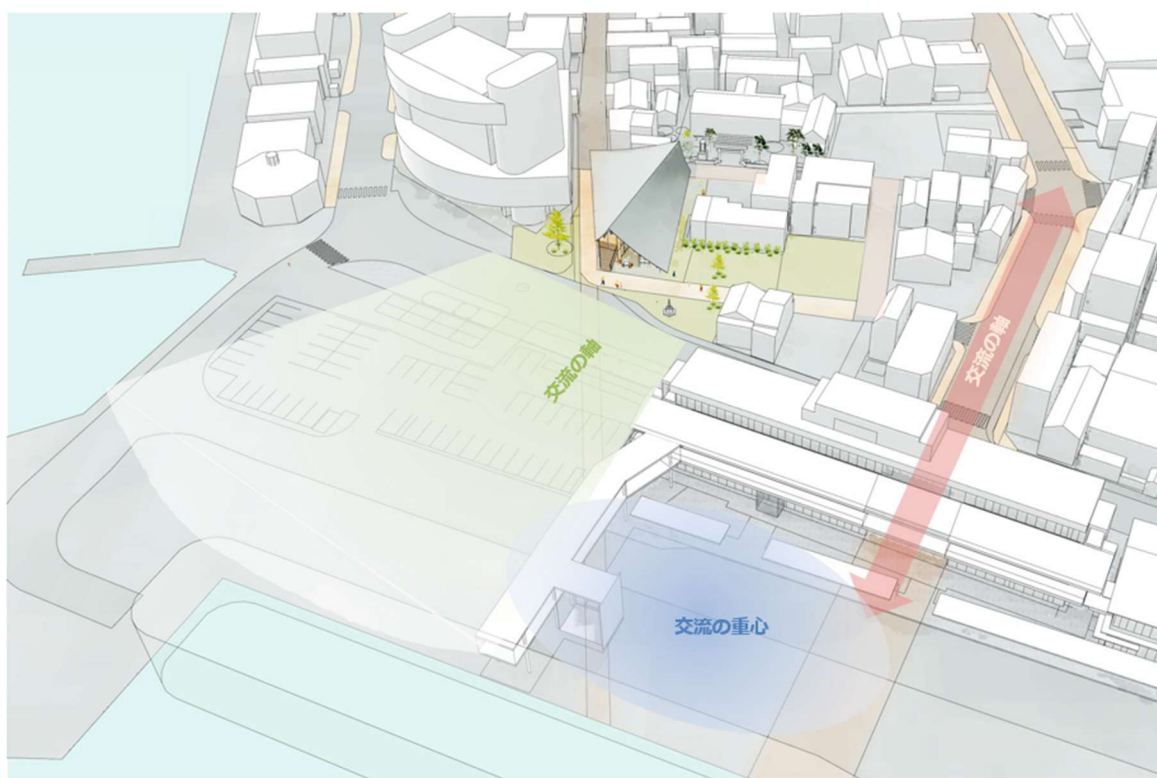
(2) 西郷港周辺地区整備の全体計画図

西郷港周辺地区整備では、海とまちをつなぐ交流の軸として「うみまち通り」を整備するとともに、「海に見える交流館とその周辺広場」を一体的に配置し、これらを海側に開放する方針で整備を進めます。それらは、隠岐の島の特色をいかしたデザインと機能を持ち、町民や来訪者にとって魅力的な空間とします。

さらに2つの交流機能が交わる結節点となるフェリーターミナルを含む港湾エリアを、海とまちに開かれた交流の場として一体的に整備します。これらの空間は、町に暮らす人々と来訪者の出会いと活動の場として機能します。

施設の配置計画では、2つの交流機能が交わる「港湾エリア」と「うみまち通り」「海に見える交流館とその周辺広場」を3つの「交流の重心」としています。「うみまち通り」とその沿道の建物による「交流の重心1」は老若男女の町内外の人々が集う活発な賑わいを、「海に見える交流館とその周辺広場」による「交流の重心2」は町民を中心とした飲食と多世代の交流が生まれる地域拠点の場として心温まる賑わいを、フェリーターミナルを含む港湾エリアは2つの重心が交わる「交流の重心0」として、さまざまな賑わいを創出します。

3つの重心を整備することにより、西郷港周辺地区は、隠岐の島町の〈アイノマ〉となり、町に暮らす方々の日常の居場所、また島を訪れた人々の待合場所となり、さまざまな人たちのつながりを育みます。



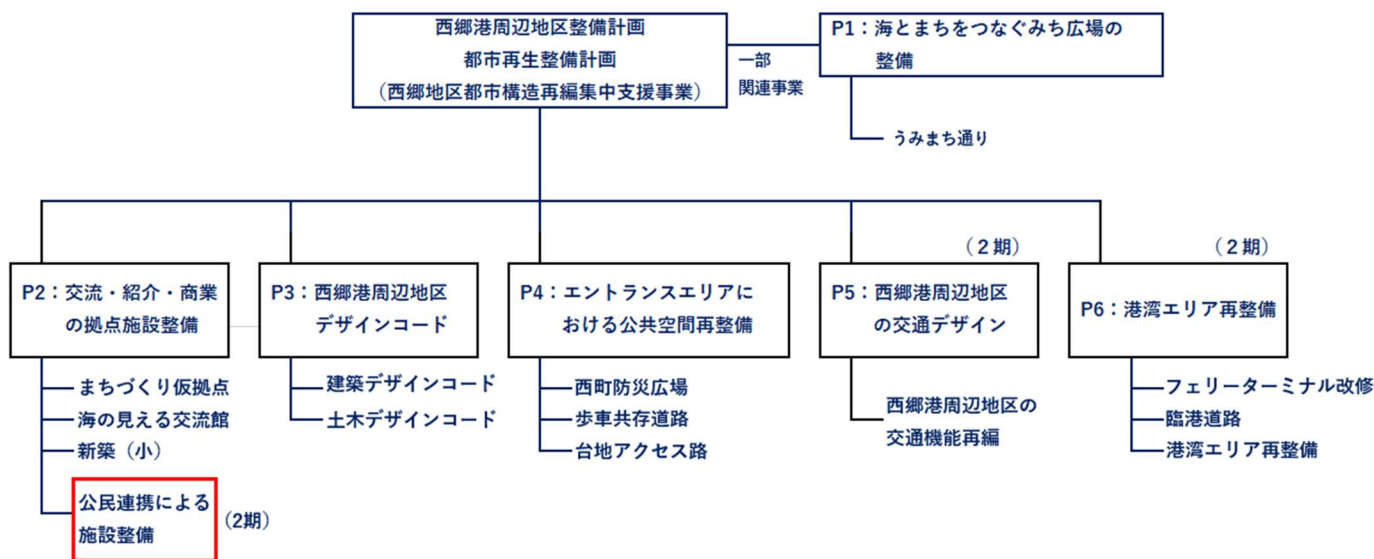
西郷港周辺地区の全体計画図と交流の重心・拠点施設の配置の関係

(3) プロジェクトの構成

隠岐の島町は、都市再生整備計画にもとづき、都市構造再編集中支援事業および関連事業を通して、以下の6つのプロジェクトに取り組んでいます。これらのプロジェクトはエントランスエリアを対象としています。

西郷港周辺整備のプロジェクト	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
P1：海とまちをつなぐみち広場の整備							うみまち通り			
P2：交流・集会・商業の拠点施設整備										
P3：西郷港周辺地区デザインコード										
P4：エントランスエリアにおける公共空間再整備										
P5：西郷港周辺地区の交通デザイン（2期）										
P6：港湾エリア再整備（2期）										

西郷港周辺地区整備スケジュール



西郷港周辺地区整備の主要プロジェクト

3-2 先行整備する公共空間と拠点施設

(1) うみまち通り（国道 485 号）

港湾エリアと水祖神社を結ぶ国道 485 号は、海とまちをつなぐ「うみまち通り」となります。特に、フェリーターミナルから目貫通りとの交差点までは、多様な世代の交流や活動を楽しむ“みち広場”として整備します。沿道には、交流施設、集会場、商業施設、住宅など、複合的な機能をもった施設が並び、人々が自由に過ごせる新たな空間を提供します。

うみまち通りの整備は、日常の利用だけではなく、フェリーなどの待合時間を豊かに過ごすことのできる滞留空間を形成します。季節ごとのイベントやマーケットの開催により、待ち時間を楽しみ体験や新たな出会いの場、地域の文化に触れる機会を提供します。



うみまち通り（みち広場のイメージ）

（2）海見える交流館と周辺広場

海見える交流館と周辺広場は、海を望む開放的な環境を活かし、海とまちが繋がる空間を形成します。交流館の1階には、民間運営による飲食店とセントラルキッチンを備えた商業施設が設置され、2階には、将来世代を含む子どもから高齢者まで、誰もが利用できるインクルーシブ※4な公共スペースが整備されます。この施設は、西郷港を望む眺望を活かし、地域に魅力的な空間を提供します。



海見える交流館イメージ



※4 インクルーシブ・・・性別、年齢、国籍、障がいの有無に関係なく、誰もが安心して参加できるようにする考え方や姿勢。

4 世代をつなぐプログラム ～次世代を担う子どもたちの参画とデジタル技術の活用～

4-1 世代をつなぐまちづくりの理念

(1) 基本的な考え方

「世代をつなぐまちづくり」という理念は、隠岐の島町の子どもたち、子育て世代、高齢者などの多世代の交流を促進するための空間づくりという意味と、隠岐の島町の将来を担う子どもたちのキャリアデザインという意味をもっています。現在世代をつなぐ事業としては、公共的な交流施設の整備によって実現しますが、将来世代を含む人材育成は、「デジタルを活用したまちづくり」、「3D都市モデルの作成と活用」、「子どもたちのまちづくり参加」の三つのプロジェクトで構成されています。

三つのプロジェクトを推進するために、隠岐の島町場は、隠岐の島町教育委員会および町内の学校と密接に連携しています。

4-2 世代をつなぐまちづくりの実施

(1) デジタルを活用したまちづくり

町内の学校で、総合探求などの正規授業で実施しています。これは、デジタル技術・機器を活用した授業で、子どもたちがタブレット端末を活用しながら、IT 技術に習熟できるよう配慮しつつ、まちづくりについての学習と子どもたちからの提案の双方向の教育を実施しています。



学校での授業風景

(2) 3D都市モデルの作成と活用

町内の小・中学校で、都市空間情報デジタル基盤構築支援事業のもとで、都市空間情報技術を用いた災害対策に関する教育を行っています。この情報は、今後、災害対策以外にも都市計画の検討など、幅広い分野での利用を進めていきます。



3D都市モデル作成に係るフィールドワーク

(3) 子どもたちのまちづくり参加

子どもたちが西郷港周辺まちづくりのプロセスを通じ、自分の将来を思い描くことのできる機会を提供し、また、ふるさとに対する愛着心を醸成しています。さらに、この学習では、まちづくりの主体として参加の機会を設けています。その成果として、子どもたちの提案に基づくまちづくりの拠点施設「うみやまもっとあつまれ」が実現しました。この施設の整備には、高校生たちも関わりましたが、今後のまちづくりのプロセスで、このような活動を発展させていきます。



高校生が製作したまちづくり拠点の看板及びイベントの様子

第3部

今後進めていく取り組み

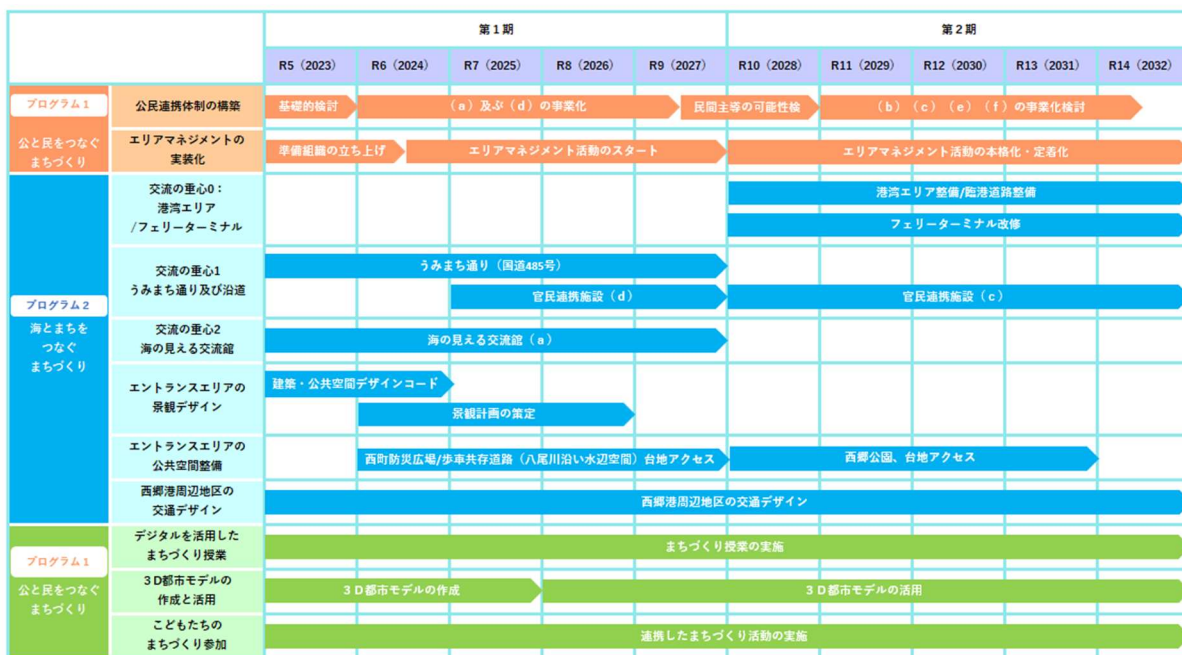
- 1 まちづくりのスケジュール
- 2 今後進めていくプロジェクト

1 まちづくりのスケジュール

1-1 まちづくりのスケジュール

西郷港周辺まちづくりは、都市再生整備計画の2期（第2期R10～R14）にあたる10年での実現を目指し、3つのプログラムを連動しながら、並行して進めていきます。

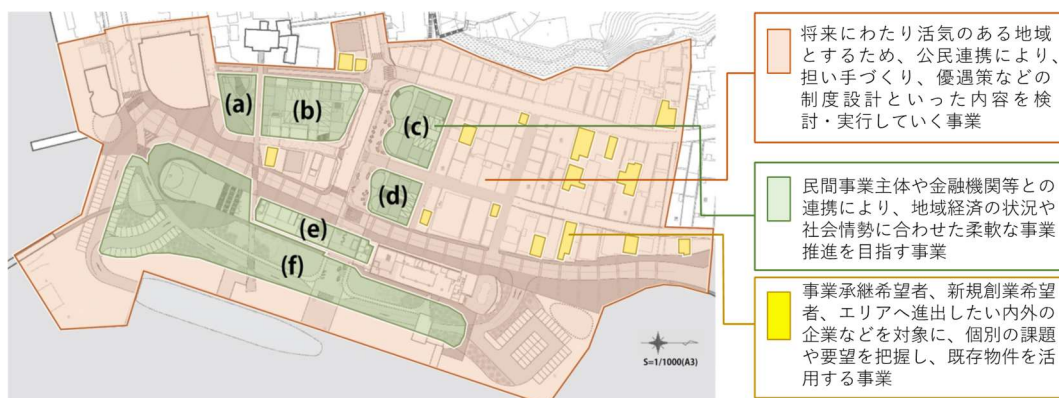
地域住民の方々や、事業者、国、県などの関係機関と綿密なコミュニケーションを図りながら、柔軟かつ着実にまちづくりを推進していきます。



※第2期については現時点の想定であり、今後変更になる可能性があります。

▲西郷港周辺まちづくりのスケジュール

西郷港周辺まちづくりのスケジュール



事業箇所	事業の概要
—	エリアマネジメント事業の範囲（西郷港周辺地区全域を想定）
(a)	交流機能と地場特産品の販売施設等の複合施設
(b)	商業・暮らしの機能等の複合施設（2期のため未定）
(c)	交流・商業・暮らしの機能等の複合施設（2期のため未定）
(d)	交流・商業・暮らしの機能等の複合施設
(e)	交通拠点（フェリーターミナル）の改修、店舗等の再編・合築施設（2期のため未定）
(f)	港湾緑地の賑わい機能（2期のため未定）
(g)	空き家や空き店舗を活用したリノベーションプロジェクト

2 今後進めていくプロジェクト

2-1 西郷港周辺整備で進めていくプロジェクト

(1) 交流・商業・暮らしの拠点施設整備：公民連携施設（d）

うみまち通り沿いに計画する新築（小）は、交流・商業・暮らしの機能を持つ複合施設です。フェリーターミナルとの連携により施設利用を促進し、デジタルの活用により、地域住民や来訪者が交流する場所となります。

(2) エントランスエリアデザインコードの策定

エントランスエリアで展開するまちづくりは、人がいる風景を大切にするまちなみ形成を中町・東町・西町・港町への四町へ展開します。エントランスエリアの景観の特徴などについて地域の方々と共有し、デザインコードを作成します。

建築デザインコードでは街並み形成と連携した、次世代の隠岐の島の風景づくりにつながる考え方を表し、公共空間デザインコード（土木）では、公共事業で整備するデザインの考え方を示しています。

今後策定予定の隠岐の島町景観計画に向けて、エントランスエリアの景観形成の方針を示すものとなります。



公共空間デザインコード（土木）のイメージ

(3) エントランスエリアで進める公共空間整備

エントランスエリアの生活環境を改善していくため、西町防災広場、八尾川沿い水辺空間、台地アクセス路などの公共空間整備を進めていきます。

西町防災広場は、台地アクセス路の起点に位置し、災害時には機能し、日常から地域の方々が集い活用される広場とします。

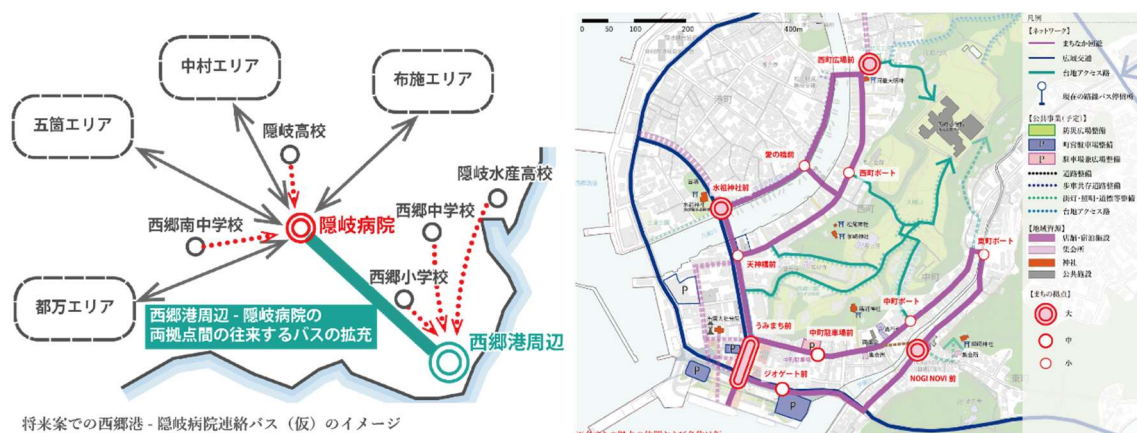
八尾川沿い水辺空間は、魅力的な水辺の風景を活かし、エリア内を周遊できるみちとして整備します。

避難路兼通学路でもある台地アクセス路は、安心・安全に歩行できる環境を整備します。

(4) 西郷港周辺地区の交通デザイン

西郷港周辺地区の整備と併せ、隠岐の島全体の交通デザインのあり方を検討します。隠岐の島全体の交通デザインのあり方に関する関係者協議を行い、スムーズな乗り換えと、豊かな待合時間を両立する交通拠点として整備していきます。

新たに整備する西郷港周辺の交通拠点では、地域資源と重ね合わせて計画することで、賑わい創出、回遊性向上など複合的な機能を備えた「まちの拠点」（モビリティハブ）としての整備を検討します。

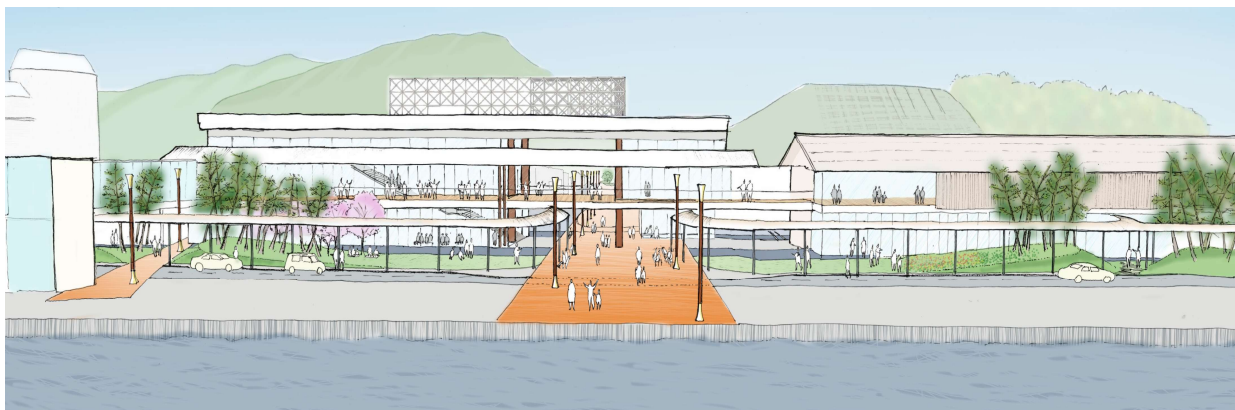


西郷港周辺地区の交通デザインの検討イメージ

(5) 港湾エリアの活用

港湾エリアは、交流・活動の場となるうみまち通りと海の見える交流館周辺とが海で結ばれる、交流の要となる場所です。港湾エリアは、待合・交流の場の充実、交通拠点としての機能向上により、海とまちをつなぐ西郷港周辺まちづくりの象徴的な場所になります。

港湾エリアの整備の実現に向けては、新たな公民連携の活用などを通して、まちづくりと一体となった検討を進めていきます。



港湾エリアのイメージ